

適正な水管理と適期刈取りで  
高品質・良食味米を生産しましょう



## 1. 7月31日 北越後管内集中豪雨について

7月31日の集中豪雨により管内においては水稻、大豆への冠水や一部地域で水路被害や水田への土砂侵入が確認されました。その後は集中豪雨もなく気象庁の発表によりますと北陸地方は8月2日に梅雨明けもしたため被害は最小限に済んだものと考えられます。

生産者各位におかれましては、今一度、下記の点についてご確認を頂き高品質米生産に向けた管理を引き続き実施下さいますようお願い申し上げます。

### 【水稻】

- ①各地区の防除計画による適期防除の徹底。
- ②用排水路の確認（草、土砂による詰まり）。

### 【大豆】

- ①各地区の防除計画による適期防除の徹底。
- ②明渠の「つまり」や「崩れ」がないか確認して、確実に排水路に繋げて圃場の排水を促す。

## 2. 特裁コシヒカリ生育調査結果（7/30）

項目	本年値	前年比	指標値比	※調査について
草丈(cm)	91.5	105.9%	107.6%	【草丈等数値】
茎数(本/株)	348.7	80.4%	93.9%	北越後管内定点調査ほ5か所平均値
葉数	12.5	-0.1 葉	-0.3 葉	【指標比・差】
SPAD	34.4	110.6%	96.9%	5月10日以降の適期移植の理想生育との比較

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈「やや長い」、茎数「やや少なめ」、葉数「並み」、葉色「並み」となっています。

## 3. 高品質米生産に向けた出穂後の水管理

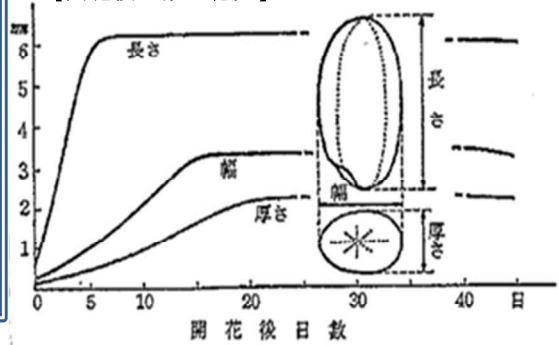
**出穂後25日頃まで湛水管理を継続しましょう。**

### (1) 高品質・良食味米対策

- 登熟初中期は米粒へのデンプンの蓄積が盛んな時期です。  
(米粒に70%程度のデンプンが蓄積される出穂期25日後を落水時期のめやすとしましょう。)
- 早期落水すると下葉の枯れ上がりや倒伏が助長されるため登熟不良により未熟粒が増加し、又、玄米中のタンパク質含有率が高まり食味が低下する要因となります。
- コンバイン収穫に支障がない地耐力を確保できる限り、落水時期は遅めとしましょう。

- ・ 玄米は、初めに長さが決まります。
- ・ 次いで幅、最後に厚みが決定します。
- ・ 厚みが決定する時期は開花後30日頃であるため、早期に完全落水しますと厚みがない米（未熟粒）となる可能性が高まります。

【開花後日数と稔実】



(2) 生育後期まで農業用水を有効利用するため、以下のことに気をつけましょう。

- 掛け流しはやめましょう。
- 水尻・畦畔の漏水対策を徹底しましょう。
- 過度な落水管理はやめましょう。
- 水更新は、強制落水せず自然減水により行いましょう。

(3) 台風(フエーン)時の水管理対策

強風・フエーンが予想される場合は湛水状態を保ち、被害の軽減に努めましょう。

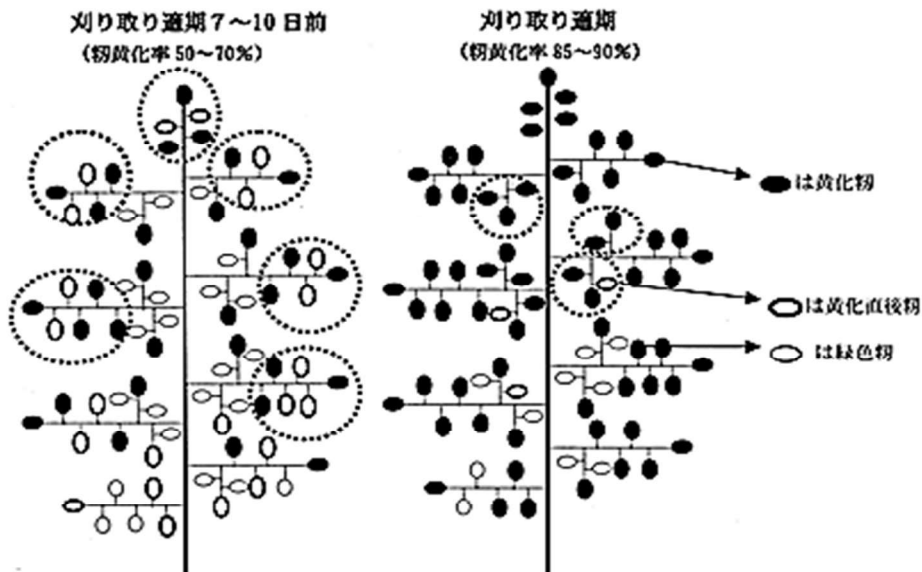
## 4. 斑点米防止対策

出穂期以降の草刈りは本田にカメムシを追い込むこととなりますので

**8月一杯は農道・畦畔の草刈りを控えましょう。**

## 5. 収穫適期のめやす

1. 黄化籾割合が85%から90%くらいになった頃が収穫適期となります。



図中の点線内の籾(上・中位1次枝梗籾)が黄化した時が刈り取り適期  
7～10日前

(注) 黄化の診断は1次枝梗が9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は20穂程度必要である。  
16本以上が該当すれば7～10日前

図中の点線内(上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時が刈り取り適期

(注) 籾黄化の診断は1次枝梗が9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は10穂程度必要である。  
8本以上が該当すれば刈り取り適期

2. 収穫適期は、出穂後の日数や出穂後の日平均気温の積算値からおおむね推定できます。

【裏面へ】

 栽培記録簿の確実な記帳をお願い致します。

～8月末が2回目の提出日となります～

